

# 庞泉溝国家級自然保護区におけるカケスの個体数動態

武建勇・郝映紅・王俊田・王建平

庞泉溝国家級自然保護区

摘要 1985~1987年, 山西省<sup>パシユアンゴウ</sup>庞泉溝国家級自然保護区におけるカケスの個体数動態について基礎的研究を行なった。油松林にけるカケスの遭遇数は4.41羽で, 総数の53.89%を占め, これはカケスの最適生息環境である。カケスの年間個体数変動は最高が7月, 最低が5月である。

1985~1987年, 山西省庞泉溝国家級自然保護区(東経111° 21' ~111° 33', 北緯37° 45' ~37° 55')においてカケス(松鴉 *Carrulus glandariusu pekingensis*)の個体数動態の基礎的研究を行なった, 本区の山は高大(主峰は関帝山標高2830m)で, 森林は密生し, 主要樹種は華北落葉松 (*Larix principis-rupprechtii*)<sup>1</sup>, 雲杉 (*Picea spp*)<sup>2</sup>, 油松 (*Pinus tabulaeformis*)<sup>3</sup>, 楊 (*Populus spp*), 樺 (*Betula spp*) 等である。1月の平均気温は-10°C程度で, 7月の平均は17°C前後, 無霜期間は90~100日, 年平均降水量は600~800mmである。

カケスの生息環境の森林および標高は, 3つの植被類型に分けられる(図1)。

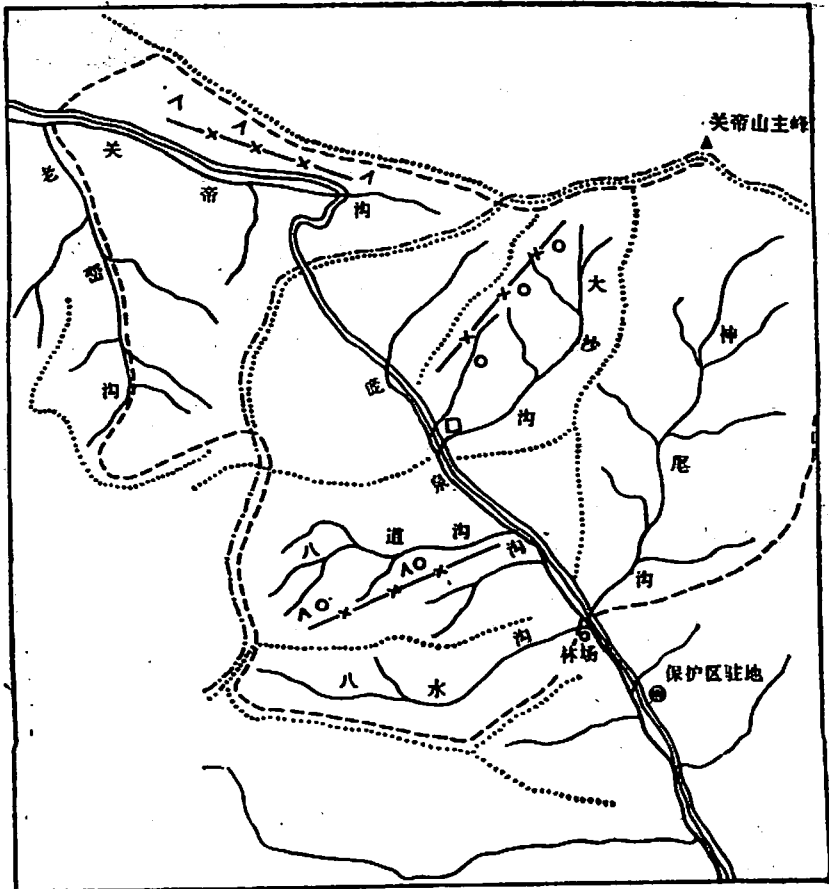


図1 山西省庞泉溝国家級自然保護区カケス調査コース

△針葉林 ○広葉林 ▲○針広混交林 .....稜線 -x-x- 調査コース □ミミキジ飼育場 --- 保護区境界

1. 広葉林型 標高 2300~2650m. 主に広葉樹として遼東櫟 (*Quercus spp*)<sup>4</sup>, 楊, 樺等.

2. 針葉, 広葉混交林型 標高 1800~2300m. 主に華北落葉松, 雲杉, 油松および楊, 樺, 遼東櫟等.

3. 油松林 標高 1600~1800m, <sup>ハンゾウイ</sup>陽圪台林場の羊皮溝, 筆架山, 関帝溝等の油松林区

以上述べた3つの森林植被類型中, 各1ルート2000mを選択し, 同一調査人員をもって, 全区毎月3回, 毎回1時間のルートセンサスを行なった. 夏から秋は8:00~10:00の間に, 冬から春は9:00~11:00の間, ルート上で観察されたカケスの個体数を記録した. これをもって, 毎年, 各月の各森林植被中の個体数を合計し, その個体数平均値より本区のカケスの生息個体数指数算出した.

個体数合計はこの鳥の個体数の大きさの, 時間, 空間上の変動を研究する主要な手段で, 通常は相対密度を求めて生息数に代える. 本区のカケスの個体数, 分布と変動は表1と表2に示す.

表1により本区におけるカケスの個体数 (2km/h) は  $8.91 \pm 2.26$  羽で, 年間の個体群数は安定していることがわかる.

表1 カケスの個体数

調査年	調査時間	2Km/h 出現数 (羽)												月平均出現数
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1985	36	4.66	4.00	4.33	3.67	2.00	6.33	12.67	11.67	9.33	7.67	3.33	3.67	6.11
1986	36	6.33	6.00	7.00	5.33	4.33	9.67	14.00	12.00	10.35	9.67	8.00	7.33	9.33
1987	36	8.67	9.00	9.00	7.67	6.00	13.00	21.96	18.67	16.67	14.67	12.67	10.00	12.31
3年平均		6.55	6.33	6.78	5.57	4.11	9.67	16.11	14.11	12.11	10.67	8.00	7.00	8.91

表2により本区におけるカケスの個体数分布は森林環境に従って異なることがわかる.

1. 広葉樹林型 カケスの個体数は最も少なく (2km/h) わずかに 2.64 羽で, 個体群総数の 9.87% である.

2. 針葉, 広葉混交林型 カケスの個体数, 分布は中程度で, 出現数 9.69 羽, 個体群総数の 36.24% であった.

3. 油松林型 カケスの個体数は最も多く, 遭遇した個体数は 14.41 羽, 個体群総数の 53.89% である.

上述のことからカケスの最適な生息環境は油松林型であることがわかる.

カケスの年間個体数動態出現曲線の最高は7月で, 最低が5月. これは本区におけるカケス個体群の最低数 (平均 4.11) で, 繁殖前期の個体数であることがわかる. 7月の本区での気温は最高 17.2°C であって, カケスの個体数も最高 (平均値 16.11 羽) となり, 最低数の 3.92 倍となる. これは, カケスの繁殖後, 幼鳥の大量の出現によるものと思われる.

表2 カケスの森林特性による個体数

年度	調査時間	2km/h 出現数 (羽)			年平均
		広葉林	針広混交林	油松林	
1985	36	1.17	5.08	12.08	6.11
1986	36	2.58	9.08	13.33	8.33
1987	36	4.17	14.92	17.87	12.31
平均値		2.64	9.67	14.41	8.91

訳注

\*1 華北落葉松 (*Larix principis-rupprechtii*); マツ科, カラマツ属, 河北省, 山西省の標高 1400~2800m に分布. 用材に利用される.

- \*2 雲杉 (*Picea* spp) ; マツ科, トウヒ属. 雲杉の学名 *Picea asperata* で四川省, 陝西省西南部, 甘肅省南部, 寧夏省山岳部, 青海省東部に分布する.
- \*3 油松 (*Pinus tabulaeformis*) ; マツ科, マツ属, 遼寧, 内モンゴ, 河北, 山東, 河南, 山西, 陝西, 甘肅, 青海の各省と四川省北部に分布.
- \*4 遼東櫟 (*Quercus* spp) ; ブナ科, コナラ属, 遼東櫟の学名は *Quercus liaotungensis* でカシワ *Quercus dentata* と共に黒竜江省, から華中に至り分布する.